

こう使う!
COLUMBUS 21
ENGLISH COURSE

松村先生の授業を レポート!

1年生少人数クラス(生徒数:11名)

学習内容: Unit 6 タスク(ラウンド4)

本時の目標: Unit 6の表現を使ってやり取りする



“How are you?”

教室に集まってくる生徒たちに、松村先生が声をかけた。

“I’m hungry.”

“Hungry? Why?”

“Because I ate only *ochazuke*.”……

授業前から、英語での会話が自然に繰り広げられている。チャイムが鳴ったときには、生徒はすでに英語モード。あいさつ、日付、天気の確認と、リズムカルにやり取りが展開していく。続いて、翌日に控えた英単語テストの学習に入る。ペアで交互に単語を読み、全員で読みを確認した後、各自で書き取り練習という流れだ。生徒たちはスラスラと鉛筆を動かしていた。

[1st Try] Planning タイム 質問のしかた、答え方を考える

ここからいよいよ本時の活動へ。松村先生が“Where did you go in December?”と問いかけながら、ワークシートを配付した。そこには、昨年12月に校外学習で行った体験型英語学習施設に再び行くことになったので、必要な情報をお互いに聞きながら、待ち合わせの場所と時間を決めよう、というタスクが書かれていた。

Step1では、まず起床、洗顔、朝食、歯ブラシ、着替えといった朝の日課について、それぞれの行動を行う時間を記入した。次に、松村先生は1分間の「Planningタイム」を設定。会話に入る前に、質問のしかたや答え方を考える時

今日の
授業はココ!

●Unit 6 Breakfast Time

本文の内容: アメリカ出身のティナの家では、朝から元気な声が聞こえてくる。でも、なかなかティナが起きてこなくて……。

ラウンド	時間数(目安)	内容
1	1	リスニングによる内容理解: 絵から読み取れる情報をヒントに聞き取る
2	1	音と文字の一致: 順不同に並べた絵カードの順を正す
3	3~5	音読: ①単語確認と内容理解 ②音読の徹底 ③Read and look up ④グラマーハント(※1)
4	1~2	レシテーション(暗唱)+タスク ★
5	1~2	リテリング(Story Retelling): 特定の登場人物の視点から伝える

※1 該当する文法事項をゲーム感覚で本文から探す活動。

間だ。生徒の会話に耳をすますと、「洗顔は、wash face?」「歯ブラシって何だっけ?」「Tooth ブラシ?」などの声が聞こえてきた。その後、松村先生は「OK。とりあえずやってみよう!」とタイマーをセット。生徒たちは自分なりに考えた表現を使い、情報を聞き出していく。

[1st Try] Sharing タイム 使った英語表現をシェアする

2分後、松村先生は日本語で声をかけた。

先生 どんな英語が出たかな?

生徒1 What time do you ~? とか。

先生 いいね。ほかには?

生徒2 How about you?

先生 OK。「起きた」とかは言えた?

生徒3 Get up!

先生 じゃあ、「顔を洗う」は何て言う?

こんな要領で確認しながら、生徒から出てきた表現を次々と板書していく。

続くStep2では、待ち合わせ場所と時間を決める。Step1と同様、まずは2分間、各ペアで自分たちなりに会話してみて、使った表現をクラスにシェア。松村先生がその表現を板書、という流れを繰り返した。それを終えると、各自ワークシートに、1st Tryでの会話を振り返り、CAN-DOの4段階で自己評価を行った。



松村先生に見守られながら、ペアで会話に取り組む生徒たち。



これまでのラウンドで触れた表現を思い出しながら、手探りで言葉を紡いでいく。

[2nd Try] Reflection タイム 表現を確認しながら再挑戦

ここでペアを変え、1st Tryと同じように、Step1,2の順に会話に挑戦していく。松村先生は、今度はタイマーを5分にセット。朝の日課の時間をたずね合い、待ち合わせ場所と時間を決めるところまでを一気にやってしまうよう指示した。2回目の挑戦とあって、教室の至るところから、滑らかで自然な会話が聞こえてくる。「What time do you ……えっと(黒板を見る) ……brush your teeth?」と、表現を忘れた生徒は、黒板で確認しながら練習していた。松村先生は机間指導しながら、生徒たちが英語で言えずに日本語で話していた表現をピックアップし、黒板に書き出していた。

タイマーが鳴ったところで、生徒たちは再び会話の出来をワークシートにCAN-DOの4段階評価で記入し、学習成果を確認。その間に松村先生は、黒板に書いてあった「だらしのない」「店、開いてるの?」といった表現を英語でどう言うか紹介した。この「Reflectionタイム」が、生徒たちの表現の幅を増やすようだ。ワークシートをのぞいてみると、この日使った英語表現や単語がたくさんメモされていた。終業を告げるチャイムが鳴ってからも、黒板を熱心に書き写す生徒たちの様子が見られた。